令和７年度　　城　東　中　学　校　総　括　評　価　表

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　価		学校関係者の意見	
学習指導 エージェンシーを高め、対話による合意形成をするための、語彙力の向上を図る。	①主体的・対話的で深く学び合う生徒の育成を目指した授業改善を図る。 ②学習習慣を確立し、自らの課題に主体的に取り組む生徒の育成を図る。 ③語彙力や話し合いのスキル向上をさせ、対話による合意形成のできる生徒の育成を図る。	評価指標 ①各教科の授業内容が概ね理解できている生徒が８０％以上である（アンケート調査）。 ②１日平均１時間以上家庭学習に取り組む生徒が75％以上である。また、学習規律を守る生徒が95％以上である。 ③ホワイトボードミーティング等の手法を用い、意見交換の場を積極的に設け、生徒が考えをまとめたり、思いを表現したりできるようにする。また、単元の振り返りやレポートの作成など、記述したり表現したりする活動を積極的に取り入れる。 活動計画 ①＜城東中学校学力向上実行プラン＞を策定し、各教科の到達目標についての評価を実施する。 ②「学力向上のための生活改善１０か条」「各教科の学び方」などの配布を通して、学力と生活習慣の関係、効果的な学習方法、及び学習規律を指導する。 ③生徒が自己の思いや考えをまとめたり表現したりする活動を積極的に取り入れる。	評価指標の達成度 ①授業の内容が理解できている生徒が７８％と目標値をやや下回った。教師は指導方法の研究や工夫、教科部会での検討等を通して「わかる授業・自ら学びたくなる授業」づくりを続けているが、今後も改善の余地がある。 ②１日平均１時間以上家庭学習に取り組む生徒が６９％、学習規律を守る生徒は９１％と、両項目とも目標値をやや下回った。夢や目標をもち実現に向け努力する生徒が多くいる一方で、学習規律を守り、自主的に学習に取り組むことの大切さを知りながら、実行に移せていない生徒がいるのも現状である。学ぶことの意味を今一度考えさせ、自らの未来を切り拓くための学力を身につけさせていきたい。 ③「話し合いの場において、相手に分かりやすく伝えるための工夫をした」と答えた生徒は８０％で、前回調査時よりも意識の向上が見られた。また、「知識や技能の活用を含めた思考力・判断力・表現力や態度を育成することを目指して、定期的にまたは単元ごとにパフォーマンス課題等を設定している」と答えた教員は８０％であり、継続的な取り組みが重要である。 活動計画の実施状況 ①城東中学校学力向上実行プランを軸に、各教科で指導と評価の在り方や授業改善に向けての研究・協議を行い、生徒の学力や学習意欲の向上に努めた。 ②「学力を伸ばしたい人のための生活改善１０か条」を年度初めに「各教科の学び方」とともに生徒及び保護者に配付したり、夏休み等の個人面談時にそれらを活用したりして家庭との連携を図った。また、日々の授業や学年集会等で、細やかな振り返りや学習方法についての指導を継続的に行い、学習意欲や意識の向上・改善に努めた。学習規律についても全学年で徹底できるよう取り組んだ。 ③書くことを中心に全教員で語彙力向上をテーマに授業改善に取り組んだ結果、「自分の思いや考えを的確に表現するために、ふさわしい言葉を選ぶことを意識している」と答えた生徒が７８％と前回調査と同等であった。	総合評定 （評定） B （所見） 学習規律を守り、落ち着いて授業に取り組む生徒が多く、学習に対する意識や意欲はある程度高いと感じる。一方、自分の考えを表現することに対しては苦手意識をもつ生徒が一定数いるので、今後はペアやグループでの話し合い活動をこれまで以上に取り入れ、合意形成のできる生徒の育成をめざしたい。	・ホワイトボードミーティングを用いる先生方も増えて、生徒にも話し合いの技法が身についているのが良い。ホワイトボードミーティングを様々な場面で活用してほしいと思う。 ・自分の意見を伝えることが苦手な生徒に寄り添っていただき、安心して自分の意見が言える子ども、他者の異なる意見を受け入れられる子どもになってほしい。 ・先生方が評価するというのが大事なこと。先生自身が見直して、今後に生かしていくということをしていただいていたらいいと思う。 ・子どもが塾に行っているが、塾の先生よりも学校の先生が教えてくれる方がわかりやすいと言っている。部活の時にも勉強を教えてもらったりしている。頼りにしている。 ・中学校の時から、自分の考えをまとめて発言する体験をさせてもらえるのはありがたい。得意不得意もあるので、顔見知りの少人数などの形で経験させてくれているのが大事だと思う。今後共通テストも、結果じゃなくて過程が求められる時代になると思う。	・「わかる授業・学びたくなる授業」をめざし、今後も教員間での情報交換や最新情報の入手・共有に努めたい。また、今後も学習規律の徹底を図り、落ち着いた学習環境の構築に努める。 ・合意形成のできる生徒の育成をめざし、今後も生徒の語彙力向上に向けた実践ができるよう研究や工夫を重ねていきたい。また、思いや考えを表現したり、話し合いを通して他者理解を深めたりする場を設定していきたい。 ・生徒に「何を学ぶのか」「何を身につけるのか」を意識して授業に取り組んでもらえるよう、基本に立ち返り、「めあて」や「振り返り」をきちんと示した授業を実施していきたい。 ・生徒に学習計画をきちんと立てさせるとともに、必ず振り返りをさせ、自己の学びを調整させていきたい。また、学習活動に対するフィードバックを明確かつ迅速に行い、生徒の自己改善につなげられるようにしたい。
道徳教育 自己をみつめ、共によりよい生き方を求める生徒の育成。	①人権尊重の精神と、他の人に対する感謝と思いやりの心を通して人間愛を育てる。 ②日常生活における役割と責任を自覚し、規律を重んじ、創造性をもって集団や社会に貢献する態度を育てる。 ③望ましい生活習慣を身につけ、何事にも主体的に取り組み、最後まで粘り強くやり抜くたくましい心と命を大切にする心を育てる。	評価指標 授業の内容について深く考えることができたと感じる生徒が85％以上である。（アンケート調査） 活動計画 ①授業改善と評価のための校内研修を充実させる。 ②教材開発のための研修会を各学年で行う。	評価指標の達成度 １年生は８７％、２年生は９１％、３年生は９４％の生徒が深く考えることができたと回答しており、目標の指標は達成している。 活動計画の実施状況 ①フレッシュ研修等で研究授業を行う際に、学年で検討を行い、授業の組み立てや教材の研究を行った。その中で、道徳教育について考えを共有し、研修を行った。 ②学年間で授業で扱う道徳の教材について話す時間をもつなど、教材について話をする時間はある。しかし、教材開発となるとそれにかけられる時間は十分になく、どのように時間をつくり、開発を考えるかが課題である。	総合評定 B （所見） 生徒たちは授業を通して、自分の考えや思いを発表することができた。また、自分とは異なる考えがあることを知り、お互いを尊重できるようになってきている。授業の中で考えたことが、日常生活で生かされるような行動が増えることを期待したい。	・学校に行けばいろんな友達がいて先生方もいて、いろんな人たちと関わるっていうことが大事で、そういう時間を大事にしてほしいと思う。 ・昔は普通にできていた体験が、今はそういう機会を作っていかないとダメ。人を育てる場としての学校の役割っていうのがすごく大事だと思う。 ・実際に本当に頭でっかちになっているのでそれを実体験していくことがとても大事だと思う。	・学校教育全体を通して、道徳心をもち、自分の命や人権も、他人の命や人権も大切にできる生徒の育成が肝要である。 ・全教職員が、授業だけでなく学校生活全体の中で生徒たちの様子を観察し、生徒たちがお互いに思いやりや気遣いの気持ちをもって学校生活を送ることができるよう支援したり、できている場面では褒めることや承認したりするなどの手立てを行っていく。

「評定」の基準　Ａ：十分達成できた。　Ｂ：おおむね達成できた　　Ｃ：達成できなかった

令和７年度　城東中学校総括評価表

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
人権教育 人権の大切さを学び、人権尊重の意識や態度を身につけ、日常生活の中で人権尊重を当たり　前のこととして行動しようとする人権文化の創造を目指す人間を育てる。	①人権教育を教育の中核に位置付け学校教育全般にわたって、あらゆる場、あらゆる機会に民主的な人間関係の確立に努める実践を積極的に行う。 ②地域社会の実態、生徒の実情に立って人権教育を進める。 ③教師と生徒、及び生徒相互の人間的な関わりを通して相互理解と信頼関係を深め望ましい集団活動や楽しい仲間づくりをする学級経営に努力する。 ④学校ぐるみの指導体制を確立し、子どもの可能性を伸ばす。わかる授業の創造をめざして、個人に応じたきめ細かな指導の徹底を図り、学級、全校、課外などあらゆる場面で民主的集団づくりをめざす。	評価指標 ①人権作文を執筆する生徒が100％である。全教職員が学年代表作文を読み、学校代表作品の選定に参加する。 ②校内研修会や学年研修会に全教職員が参加する。 ③学年毎に授業を行うことにより、人権に対する感性を磨く。（アンケート調査）	評価指標の達成度 ①生徒のほぼ全員が人権作文の執筆に取り組み、各学年で発表会等を行い意見を交換する場をもつことができた。また、学校代表の選定に全職員が参加できるようFormsを活用した。 ②校内研究授業やそれに伴う研修会を各学年で行い、人権学習について学びを深めることができた。 ③保護者アンケートの結果は昨年度から変動のないものの、生徒アンケートでは好意的な回答が昨年度より微増した。	総合評定 （評定） B	・人権の会で聞いた「年齢が若くなればなるほど、ネットで全て済ませてしまうところがあるが、学校に行って生の意見を聞く。人に会ってその人の違いろんな意見を聞く、自分も伝える。それが大事なんですよ。」という話が心に残っている。 ・性的マイノリティの方の話が良かった。多様性という意味でも。今の子どもたちは知識としては知っていても知恵にはなってない。知恵に変えるのはやっぱり体験かなと思うので、実際に体験してみることがすごい大事だと思う。 ・外国にルーツをもつ方の話などしていただいたので、増えている外国人の方への理解を深めたり、問題点を考えるきっかけになればと思う。 ・二十歳を祝う会に外国籍の方が２名参加してくれた。言葉は通じていたかわからないが、気持ちは伝わっていたと思う。国際交流でもあるし、言葉が通じなくてもボディランゲージとかいろんな方法があって交流ができると思うので、そういう体験をしてもらうといいと思う。	・生徒の実態を見極め、学年や学級の実態に沿った人権学習になるよう、扱う内容を選定していく。 ・人権作文や心に虹をかけたまほうの言葉など、全校生徒が取り組めるような活動を今後も積極的に行い、一部の生徒の活動にならないよう留意する。 ・使用した教材やどのような学習を行っているかなど、学年を超えて情報を共有し、学校全体として人権学習に取り組んでいく。 ・研究授業者や人権主事だけの学びにならないよう、学校内での職員研修を積極的に企画したり、学校外での研修で得た学びを、学校内の教職員で共有できるようにする。そのために、研修内容のまとめや報告をこまめにできるようにする。
		活動計画 ①入学式後のPTA結成式の機会に人権教育への取り組み方について説明する。 ②前期・後期人権教育強化啓発月間（６月・１１月）を設ける。 ③校内研修会や学年研修会などの機会を通じて、全教職員で研鑽に努める。 ④校内研究授業を行う。 ⑤各種研修会に参加したとき、研修結果を報告する。 ⑥地域との連携を強化して生徒に対する共通理解をもち、積極的な行事への参加を通じてよりいっそう信頼関係を深めるように努める。 ⑦学年毎に研究授業を行い、研究を深める。 ⑧外部講師を招いての講演会を行い、研鑽に努める。	活動計画の実施状況 ①人権委員会での取り組みや学校として人権学習にどう取り組んでいくか説明した。また、ＳＮＳに起因するトラブルから人権問題に繋がる例が多いため、使用について注意喚起した。 ②６月には全学年で人権作文の執筆に取り組んだ。また、11月のオープンスクールでは講師を招いて「県内在住の外国人の実態」や「やさしい日本語」についての講演を聞いた。 ③学年での研究授業に際して授業研究会を行った。オープンスクールではTOPIAより講師を招き外国人について学びを深めた。 ④各学年で研究授業を行った。 ⑤人権主事を中心に多くの研修に参加することができたが、学校内全体で共有するまでには至らなかった。ストークの回覧板等を用いて、研修で学んだことを広く共有できるようにしていきたい。 ⑥オープンスクールの講演会は、学校運営委員やPTA人権教育推進部の方々に事前に周知し、参加いただけた方とともに、人権について学ぶことができた。 ⑦どの学年も特に同和問題について授業研究を深め、学年ごとに研究授業を行うことができた。徳島市・佐那河内村人権教育研究大会では、各学年毎に公開授業や研究会に参加し研究を深めることができた。 ⑧日本で生活する外国人にスポットを当てた講演をしてもらい、学校の実態に即した内容の人権学習を深められた。	（所見） 委員会での活動では、生徒主体でＳＮＳの使い方やそれに起因するいじめ問題を取り上げた紙芝居を作成した。文化祭で発表するなど、生徒主体の活動を行うことができた。 外部講師を招いての講演では、日本以外にルーツをもつ人について学び、学校や学級の実態に合った内容の学びを進めることができた。 一方で、研修の内容を広く共有することができず、外部の研修に参加した人のみの学びや、学年での研究会で終わってしまった。		
生徒指導 生徒の規範意識を高め、基本的な生活習慣の確立をめざす。	①生徒の生活実態を把握する。 ②挨拶の習慣を定着させる。（特に登校時）	評価指標 ①調査の結果から、生徒の実態を把握し、様々な問題の解決を図る。（アンケート調査） ②家族や地域の方々へも挨拶ができる。（アンケート調査）	評価指標の達成度 ①「あいさつができている」という生徒の意見は、９０％あったが、保護者の意見は「習慣が身についていない」が２２％だった。 ②仲間や先生に対しあいさつはできていると思われるが、保護者や地域の方へのあいさつは十分でないと考えられる。	総合評定 （評定） B	・挨拶ができている数値が子ども、保護者ともに昨年より上がっている。ただ、子どもの意見と保護者の意見との差が大きいままなので、来年度は学校外での保護者や地域の方への挨拶ができるようになってほしいと思う。 ・いろんな事が起こっているが、そこからの経験から先生としての力を付けて対応できる先生になっていただけたらと思う。若い先生方にもベテランの先生がフォローしながら、いろんな面でバックアップしていただいて、実力をアップしていただければいい。	・SNSからトラブルに発展する事案が多くなっているため、スマートフォンの使い方などの指導や家庭への啓発の機会を増やしていきたい。 ・学校内では、１人でも挨拶ができるが校外にでると挨拶ができなくなる。部活動の練習試合や大会、いろいろな機会に指導していきたい。
		活動計画 ①学期に１回程度、生活アンケート調査を実施する。 ②教師や生徒会活動による挨拶運動を実施する。	活動計画の実施状況 ①各学期にアンケートを実施し、問題点や気になることは、生徒と担任が面談し解決へ導くことができた。 ②冬の寒い時期になると、挨拶運動に参加する人数が減り、登校生徒のあいさつに元気がなくなる。少しでも人数が集まり、朝から元気に活動できるようにしたい。	（所見） 問題が発生する前に、気になる生徒の情報交換をする場にしたかったが、問題行動がおこったあとの情報交換会になってしまった。		

「評定」の基準　Ａ：十分達成できた。　Ｂ：おおむね達成できた　　Ｃ：達成できなかった

令和７年度　城東中学校総括評価表

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
特別支援教育 特別な支援を必要とする生徒に、全教職員が共通理解を図って対応する。	特別な支援を必要とする生徒の実態を把握し、よりきめ細かな対応に努める。	評価指標 ①「本校の支援を必要とする生徒について、教職員が理解に努めている」が９０％になる。 ②特別な支援を必要とする生徒の８０％以上に対応できる。（実態調査） 活動計画 ①対象生徒の実態について共通理解を図り、校内委員会で個々の対応について考える。 ②生徒、保護者の理解を得て、教職員が連携を図り、適切な対応をとる。	評価指標の達成度 ①「特別な支援を必要とする生徒が必要とする支援内容について、理解に努めている」が「そう思う」と「どちらかというとそう思う」を合わせて９８％であった。 ②「特別な支援を必要とする生徒に、必要な支援が８０％以上できている」が「そう思う」と「どちらかというとそう思う」を合わせて８３％であった。 活動計画の実施状況 ①職員会や学年会で、特別な支援が必要な生徒とその支援内容について共通理解を図った。 ②生徒や保護者の思いを把握し、校内委員会で支援方法を検討した。また、巡回相談員にも助言を求めた。その内容を共有し、その後の支援へつなげた。	総合評定 （評定） B （所見） 誰にどのような支援が必要であるかを把握し、その具体的な支援方法について専門機関と連携しながら学校全体で取り組んだ。	・いろいろな特性をもった子どもがいるが、それに対応していってくださればいい。先生方も思いをもってやってくれている。 ・外国から日本に来て、日本語があまりわからない子どものために、ある程度集中して日本語を勉強してから学校に入るというようなシステムがあればいいと思う。	・個別に支援が必要な生徒が増えている現状である。それぞれに継続して対応するために、引き続き人の配置を工夫をしていく。 ・当該生徒に巡回相談などで頂いた助言を他の生徒にも活かせるように、その内容をパターンでまとめて共有する仕組みを構築する。 ・日本語支援を受けている生徒の支援内容を共有し、生徒が学んだことが実際の学校生活で活かせたという達成感を得られるようにする。
安全教育 登下校時の安全意識の向上をめざす。	自転車通学生のヘルメットの着用を徹底する。	評価指標 自転車通学生のヘルメット着用率が95％以上になる。（アンケート調査） 活動計画 指導計画に基づき、学校周辺の交通指導を徹底する。	評価指標の達成度 「ヘルメットをきちんと着用できたか」の回答では９７％で目標を達成した。 活動計画の実施状況 立哨当番時や一斉下校時は、指導重点箇所3カ所で指導の徹底を呼びかけた。また、一斉下校時の時間差下校が定着してきており、下校時の生徒の分散ができ、少しずつスムーズな下校ができつつある。多くの教員の協力のもと、学校周辺の交通指導を強化した。	総合評定 （評定） B （所見） ヘルメットの着用率が97％になったが、交通マナーやルールを守れていない生徒もいる。	・普段の生活でのヘルメット着用は、まだまだ浸透は難しい。 ・自転車の方が加害者になることがある。自転車と車でも信号無視をして車に当たったりすると自転車の責任になる。 ・防災チームが積極的に活動されているのが素晴らしい。活動のなかで子どもたちが自主的に意見を述べ、自主的に行動している場面を見させていただいて、とても心強く感じた。	・ヘルメット着用率97％から100％へ交通指導、呼びかけなどを継続する。ほとんどの生徒が日頃から交通ルールを守り、自転車を利用している。その反面、交通ルールやマナーで守れていない生徒もいるので、呼びかけ、交通指導のさらなる徹底を行っていく。年度初めや学期始めなどで生徒全体に自転車乗車時に気をつけること、交通ルールやマナーを守ることが自分を守ることだと、しっかりと指導していきたい。また、教員方への協力も呼びかけ、学校全体で生徒の安全確保に努めたい。
環境教育 ゴミの分別・再資源化の意識の高揚と節電・節水に努める	①ゴミの分別を徹底する。 ②紙の再資源化を徹底する。 ③教室その他の場所における節電・節水を徹底する。	評価指標 ①とくしまＧＸスクールの「目指す生徒の姿」に向けた行動をとる。（実態調査） ②リサイクルボックスを活用し、教室からでるゴミを減らそうと努力している生徒が80％以上である。（アンケート調査） ③節電・節水に取り組んでいる生徒が80％以上である。（アンケート調査） 活動計画 ①とくしまＧＸスクールの目的を理解し、環境を守る意識の高揚を図る。 ②リサイクルボックスの活用を徹底する。 ③学級活動や委員会で取り組み、周囲への啓発をすすめる。	評価指標の達成度 ①今年度もクリーンアップ大作戦や花と緑を育てる運動等を継続し、環境美化活動などの体験を積極的に行った。 ②資源ゴミのリサイクルに取り組んでいる生徒が８４％であった。 ③節電に取り組んでいる生徒が７５％、節水に取り組んでいる生徒が８６％であった。 活動計画の実施状況 ①クリーンアップ大作戦には、生徒会を中心に、多くの生徒が参加し環境美化の意識の高揚につながった。 ②各教室にリサイクルボックスを設置し、余った用紙を入れる生徒の様子がみられた。 ③節電を呼びかけたが、目標達成には到達しなかった。今後も継続して呼びかけるよう促していく。	総合評定 （評定） B （所見） 前年と比較し、資源リサイクルに取り組む生徒が１％増加、節電に取り組む生徒が３％減少、節水に取り組む生徒が４％減少した。生徒会を中心に今後も意識した取り組みを継続していく。	・節電や節水については、育った家庭によるのではないか。家庭でそういう習慣が身についていれば学校でもできると思う。ただ、最近の新しい家は、自動のものが増えてきているので、自分で「切る」「止める」などの習慣はつきにくくなっているところもあると思う。	・とくしまＧＸスクールに認定され、今後もＳＤＧｓの取り組みの充実を図り、生徒会の自主的な参加に結びつける。 ・リサイクルに対する意識を向上させるために、資源の再利用を呼びかける掲示物や生徒会・担任からの声かけ、リサイクルボックス設置場所の確認を定期的に行い、生徒のリサイクルへの意識向上を目指す。 ・トイレ、教室、廊下等の節電や水道の節水を行うよう呼びかけ、掲示物などの増設や啓発に努める。

「評定」の基準　Ａ：十分達成できた。　Ｂ：おおむね達成できた　　Ｃ：達成できなかった

令和７年度　　城　東　中　学　校　総　括　評　価　表

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
キャリア教育 生徒のキャリア発達を支援する観点に立って、望ましい勤労観や職業観を身につけるために必要な知識や技能を育てることをめざす。	進路や職業に対する情報収集や学習を通して、望ましい勤労観・職業観を身につけ、将来の進路への夢や希望をもたせる。	評価指標 １年：将来の進路への夢や希望をもつことができる生徒が70%以上である。（アンケート調査） ２・３年：将来の進路への夢や希望をもち、その実現に向けて努力する生徒が80%以上である。（アンケート調査） 活動計画 ① 進路や職業等に関するさまざまな情報を本やインターネット等を利用して収集・探索し、情報を選択・活用して、自己の進路や生き方を考える。 ②進路適性検査を実施し、自分の適性や自己の果たすべき役割についての認識を深めるとともに、DVDや講師の話等を通して、社会人・職業人の生き方を学び、職業体験学習での実践力を身につける。 ③キャリアパスポートを活用し、中学校３年間での計画的なキャリア教育を実施する。	評価指標の達成度 夢や希望をもち、その実現に向けて努力する生徒が、「できていると思う」と「だいたいできていると思う」を合わせると、１年は71%、２年は60%、３年は82%という結果になった。1、３年生は目標数値に達したが2年生は前年度より26%減少し、達成に至らなかった。 活動計画の実施状況 ①２・３年生においては高校調べや高校説明会等を通して、自己の進路や夢について深く考えた。 ②進路適性検査を行う代わりに、職場体験をさせていただく場所を自ら選び、実際に校外で活動を行わせていただくなかで、働く意義や価値を学んだ。また、アントレプレナーシップ教育を実施し、課題を見つけ、価値ある解決策を考え、形にして実行する力を育てた。 ③キャリアパスポート等を記入していく課程で、自分自身について深く考える機会をもち、より良い自己実現を達成するために、課題を発見し、具体的にどのような努力が必要なのかを考えた。	総合評定 （評定） B （所見） 3年生では82%と、目標を達成したが、昨年度の同集団(2年時)の数値に比べて4%の下降が見られた。また、2年生においても、同集団(1年時)と比べると5%下降している。学年が上がるにつれてより具体的なキャリア教育を進めることが必要である。ただ、今年度から職場体験学習を再開することができたことは、生徒が将来について深く考える機会になったと考えられる。職場体験学習がアンケートよりも後の実施となったため、時系列が逆であったときの数値の変動を見ることが望まれる。	・職場体験だけではなく、アントレプレナーシップ教育の実施など、社会の一員としての意識づけや気づきができたと思う。また、この度、初めて職場体験で子どもを受け入れたが、日頃の先生方のご指導や見守りなどは本当に大変だろうなと感じた。 ・職場体験では、２年生が多くのことを学んできている。現場で働く人の言葉が、生徒の心に深く残っているようだった。 ・夢をもってないから勉強する意味が見出せていない子どももいる。予測不可能な時代と言われて、何が起こるかわからないので、夢をもちにくいところがあるのかもしれない。 ・子どもたちの見本がYouTuber とか配信者とかゲーム配信者とかになってしまっている。すごい儲かっているという発言があるが、ほんの一部の人であることも知ってほしい。	・１年時から進路や職業に対する情報提供を積極的に行ったり、２年時から高校について知る機会を設けたりするなど、将来の進路への夢や希望をもたせるための方策を早い段階で充実させる。また、今年度のアントレプレナーシップ教育のように、知識を与えるのみでなく、社会や組織の中で自ら動ける人材になるための思考と行動力を育てる活動を取り入れる。 ・職場体験学習を継続して実施し、望ましい勤労観・職業観を育てる。また職業や高校に関する調べ学習と成果の発表・共有を通して、将来の進路への関心を高めたり、見通しをもたせたりする。
食育 食育の充実を図り、バランスのとれた食生活をめざす。	朝食をしっかり食べて登校するよう生徒・保護者に呼びかける。	評価指標 朝食を毎日食べてきている生徒が80%以上である。（アンケート調査） 活動計画 ①給食時間・学級活動・集会・家庭科の授業等において、「毎日のバランスのとれた朝食が大切であること」を指導する。 ②給食だより・食育タイム・食育だより等を通して、保護者への啓発を推進する。 ③部活動での栄養指導で、バランスのとれた食生活について指導をする。	評価指標の達成度 生徒アンケートでは、今年度、毎朝朝食を食べていると答えた生徒が77%であり、目標の80%を達成することができなかった。 活動計画の実施状況 ①家庭科の授業で、家庭科教諭と栄養教諭のTTの指導による食育の授業を行った。１年生は朝食について、２年生は間食の取り方について指導をした。 ②食育だよりや給食だよりなどで、朝食摂取の重要性を保護者へ呼びかけた。 ③夏季休業中に、運動部を対象に朝食の大切さや、バランスよく食べることの必要性について栄養指導を行った。	総合評定 （評定） B （所見） 4月に実施した生活習慣アンケートでは、毎日朝食を食べている生徒が72%だったが、今回の調査では77%に増加していた。栄養指導や、講師を呼んでの食育講演会などを実施したことにより、少しでも生徒の意識が変化したのではないかと考えられる。目標値である80%には届かなかったが、これからも生徒の健康のために、教職員全体で食育に取り組んでいきたい。	・主に運動部を中心に朝食の大切さなどの指導をしていただいてありがたい。あわせて、食事制限などの極端なダイエットなどの影響についても今後指導してほしい。また、保護者向けの講演会などをしてもいいかなと思う。 ・昔は食べ物が十分でなかったから、栄養のことを考えて食事を作ってもらっている子どもは幸せだと思う。 ・部活動が外部委託とかになってきたら、より栄養指導を受けることが多くなってくる。子どもが何を食べた方がいいかを自分で判断する力をつけ、自分の食に責任が持てるようになるのが理想だと思う。	・家庭科の授業や夏季休業中の栄養指導で、朝食の重要性や、バランスよく食べることの大切さについて、引き続き指導をしていきたい。また、ホームページや食育だよりを通して、保護者への啓発を積極的に行っていきたい。 ・食育は家庭の協力が必要であるが、生徒が食についての自己管理能力を身に付けることができるよう、自分自身で生活習慣や食習慣を振り返り、改善策を考え、実践継続できるような食育をしていきたい。また、夏季休業中に限らず、部活動の食育指導を継続的に行っていきたい。

「評定」の基準　Ａ：十分達成できた。　Ｂ：おおむね達成できた　　Ｃ：達成できなかった